

# 静岡県果樹農業の現状について

(静岡県果樹農業振興審議会用資料)

令和2年11月12日

静岡県経済産業部農業局農芸振興課

## 目 次

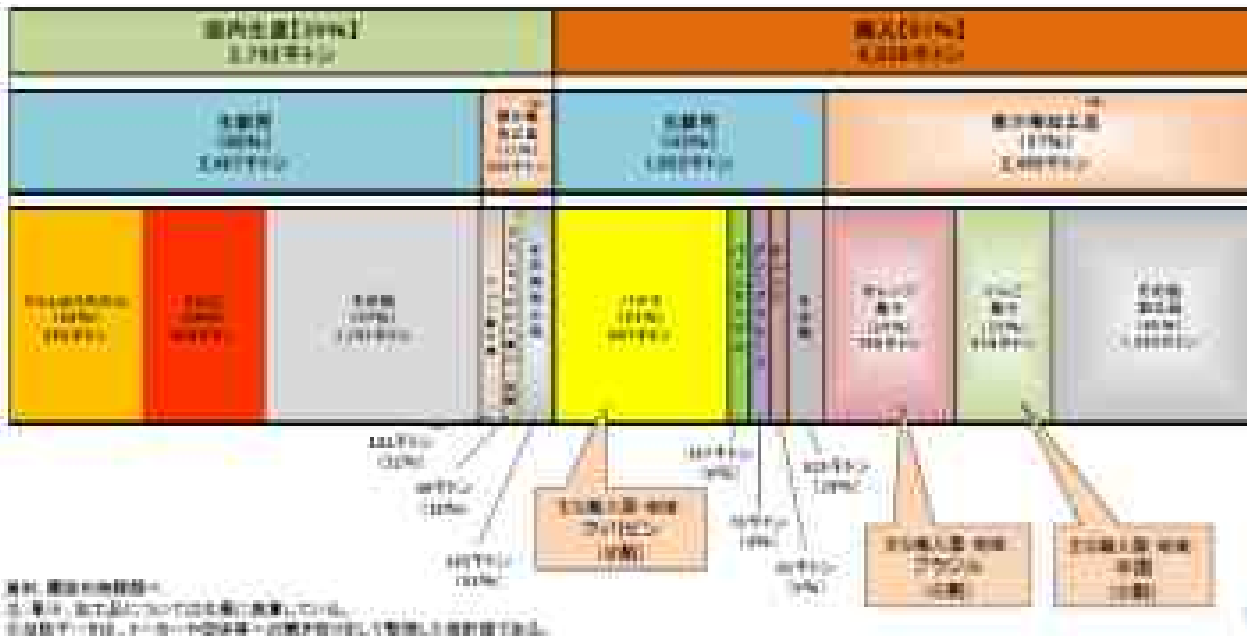
1	国内果樹の動向	
(1)	国内果実の需給構造（国内生産量、輸入量）	3
(2)	国内果樹の生産動向	3
(3)	国産果樹の流通・販売動向	4
(4)	国内果実の消費動向	
ア	消費動向の推移	5
イ	消費者ニーズの動向	6
2	静岡県における果樹農業の概要	
(1)	県内における果樹農業の位置づけ	6
(2)	県内栽培品目	7
(3)	品目別主産地	7
3	静岡県果樹農業の動向	
(1)	果樹生産者の動向	
ア	生産者数と新規就農者数	8
イ	果樹農家の経営と雇用	8
(2)	県産果実の生産動向	
ア	県内における果樹の産出額及び栽培面積の推移	9
イ	温州みかんの動向	9
(ア)	愛媛県、和歌山県との比較	9
(イ)	県内主要みかん4産地の状況	10
(ウ)	みかんの労働生産性	11
(エ)	温暖化の影響	11
(3)	県産果実の流通・販売動向	
ア	果実選果場整備状況	12
イ	県産果実の販売先	12
ウ	輸出の動向	12
エ	加工の動向	13
(4)	果実の消費拡大の取組	
ア	温州みかんにおける機能性表示	13
イ	ブランド品の創出と情報発信	14

# 1 国内果樹の動向 (農林水産省 果樹をめぐる情勢より抜粋)

## (1) 国内果実の需給構造 (国内生産量、輸入量)

- ・ 国内果実の需給状況は、国内生産品が約 4 割、輸入品が約 6 割である。
- ・ 国内生産のうち約 9 割は生鮮用で、みかんが最も多い。
- ・ 国内生産のうち約 1 割は果汁等加工品でりんご、みかんを除くその他加工品が最も多い。
- ・ 輸入品のうち約 4 割は生鮮用で、そのうちの約 5 割がバナナと最も多い。
- ・ 輸入品のうち約 6 割は果汁等加工品で、オレンジ果汁が最も多い。

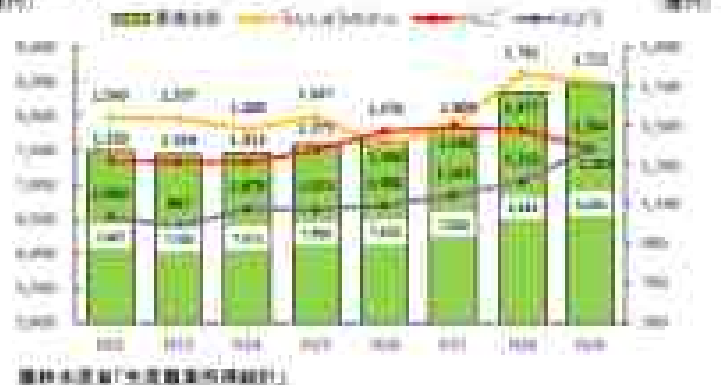
### ○ 果樹の需給構造 (平成 29 年 (推計))



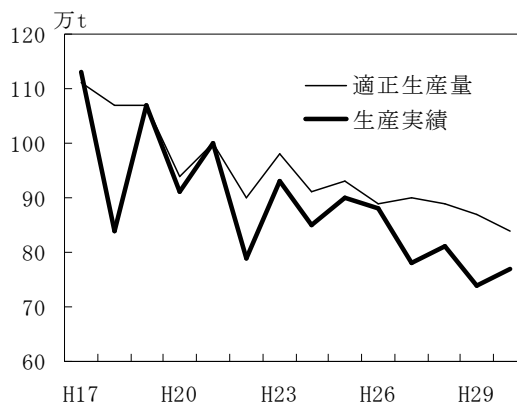
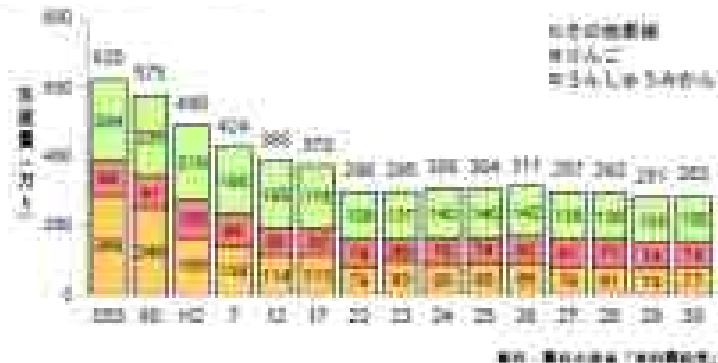
## (2) 国内果樹の生産動向

- ・ 国産果実の産出額は平成 24 年から 6 年連続して増加している。
- ・ 一方、国内果樹の生産量は緩やかな減少傾向で推移。全国的に高齢化が急速に進み、栽培農家数の減少によると考えられる。
- ・ 全国のみかん生産量は、ここ 10 年間農水省が公表する適正生産量に達したことはなかったため、令和 2 年度より適正生産見通しを示さなくなる等、需要の減少以上に生産量が減少している。

### ○ 国産果実の産出額の推移 (億円)



○ 果樹の生産量の推移



○ 全国みかん適正生産量と生産実績

(3) 国内果樹の流通・販売動向

- ・ 国産果実の卸売数量は減少傾向で、卸売価格は上昇傾向で推移している。
- ・ 卸売価格が上昇の背景として、① 優良品種・品目への転換等により消費者ニーズにあった果実が生産されるようになったこと、② 需要の減少以上に生産量が減少していることが考えられる。
- ・ 生食用果実のうち、卸売市場を経由する割合は減少傾向で推移し、全体の約6割となっている。
- ・ 卸売市場の取引方法のうち、せり取引は減少傾向で、全体の約9割が相対取引となっている。
- ・ 高齢化やインターネット通販の取扱いの増加によってトラック運転手が不足しており、農産物の物流改革が求められている。
- ・ 卸売市場法の改正により、商物分離等市場の判断で出荷が可能となった。
- ・ 生鮮果実の購入別支出割合は、スーパーが過半を占め増加傾向であり、果物屋等の一般小売の割合は減少傾向にある。

○ 国産果実の卸売数量・価格の推移



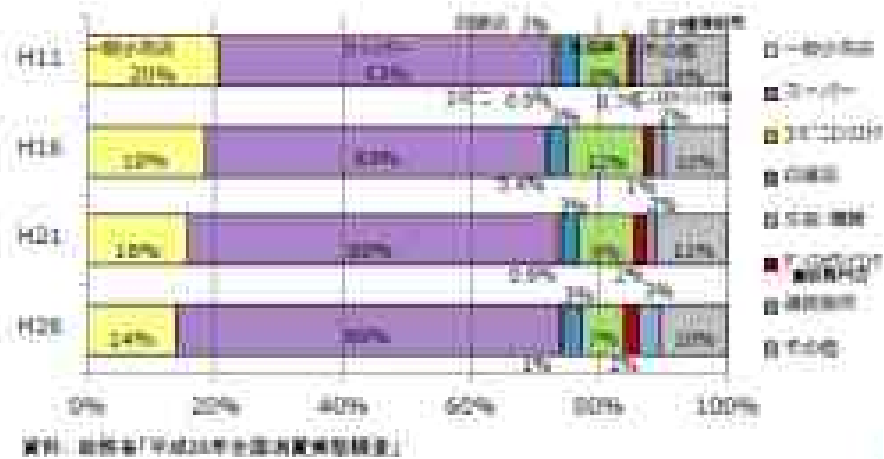
○ 卸売市場における果実の相対・せり取引の割合 (金額ベース)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
相対	72.3	70.8	69.3	68.8	69.4	68.8
せり	27.7	29.2	30.7	31.2	30.6	31.2

○ 生食用果実の卸売市場経由率

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
卸売	68	65	62	60	58	56	54	52
生食用果実	32	35	37	40	42	44	46	48

○ 生鮮果実の購入先別支出割合



(4) 国内果実の消費動向

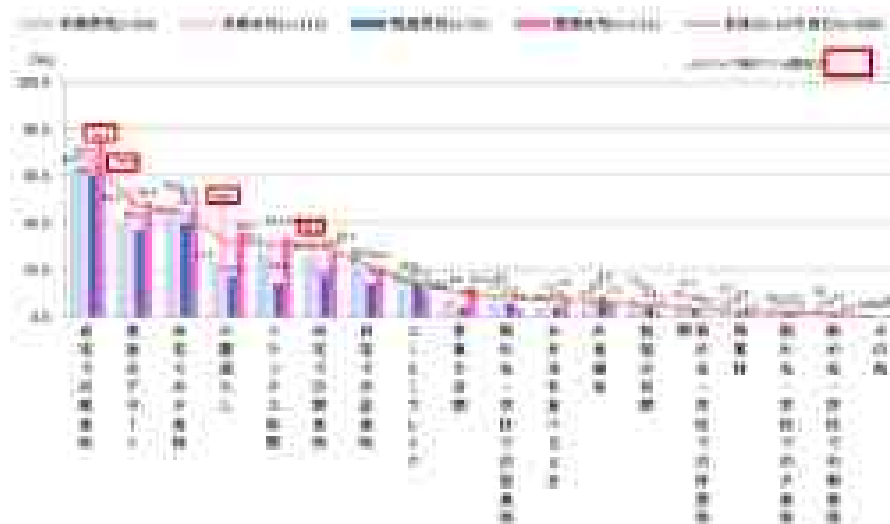
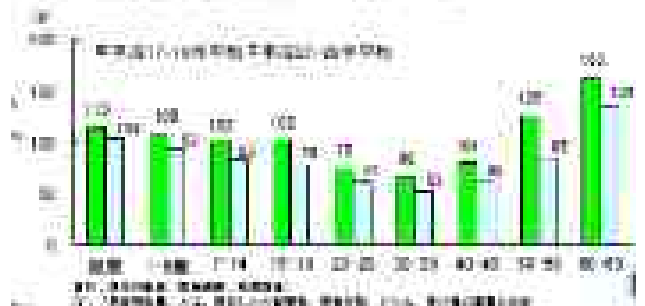
ア 消費動向の推移

- ・ 生鮮果実では、うんしゅうみかん、りんご等の国産果実の購入数量が減少する一方で、バナナの購入数量が増加傾向。
- ・ 果実摂取量は、特に 20～40 歳代で少ない。10 年前と比較すると、すべての世代で減少しており、50 歳代の落ち込みが特に大きい。
- ・ 果物の摂取を増やしたい場面は「自宅での朝食時」。未婚女性では「デザート」、間食での摂取も増加意向が強い。

○ 生鮮果実(購入)1年当たりの購入数量



○ 世代別果実摂取数量(前年と10年前の比較)



○ 日常生活の中でどのような場面で果物の摂取を増やしたいですか？

「果物の消費に関する調査報告書」 平成27年度 中央果実協会



## (2) 県内栽培品目

- ・ 温州みかんの産出額は 249 億円で、県内果樹産出額の 84%を占める主要な品目となっている。平成 26 年産は全国 1 位であった。
- ・ その他の品目では、中晩柑類が 14 億円、落葉果樹ではかきが 9 億円、日本なしが 8 億円、キウイフルーツが 5 億円となっている。落葉果樹は、農産物直売所等で販売されることが多い。
- ・ 特産果樹生産動態等調査では、県内では 22 品目の果樹が出荷されており、多様な果物が栽培されている。

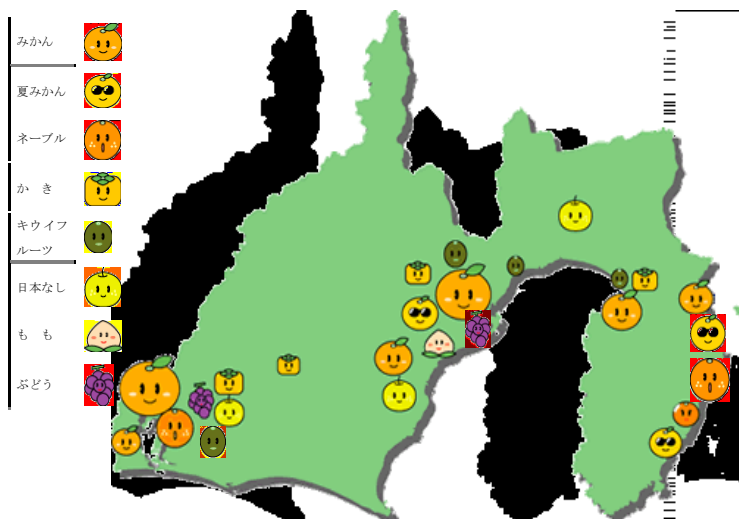
### ○ 静岡県の果樹栽培面積、産出額、主な産地（平成 30 年）

品目		栽培面積 (ha)	産出額 (億円)	主な産地
柑橘類	温州みかん	5,890	249	浜松市、静岡市、沼津市、藤枝市、伊東市、牧之原市、富士市、
	中晩柑類	983	14	静岡市、伊東市、浜松市、東伊豆町、
落葉果樹・ その他果樹	かき	427	9	浜松市、静岡市、伊豆の国市、森町、富士宮市
	くり	244	1	掛川市、下田市、静岡市、御殿場市
	うめ	240	2	静岡市、磐田市、浜松市、伊豆市、下田市
	キウイフルーツ	120	5	静岡市、富士市、浜松市
	日本なし	—	8	富士市、静岡市、浜松市、焼津市、藤枝市
	もも	—	1	静岡市
	ぶどう	—	2	浜松市、静岡市
	いちじく	—	3	袋井市、静岡市
	その他	—	3	
合計		非公表	298	

## (3) 品目別主産地

- ・ 静岡県内では広く果樹が栽培されており、みかんは浜松市、静岡市、沼津市、藤枝市、夏みかん等中晩柑は静岡市、浜松市、東伊豆町、伊東市で多く栽培されている。
- ・ 落葉果樹は県下各地で規模が小さいながらも特徴的な産地が形成されている。
- ・ かきは浜松市、森町、静岡市、伊豆の国市、日本なしは富士市と静岡市、キウイフルーツは静岡市と富士市、ももは静岡市で主に栽培されている。

### ○ 静岡県内の果樹の栽培地域と品目

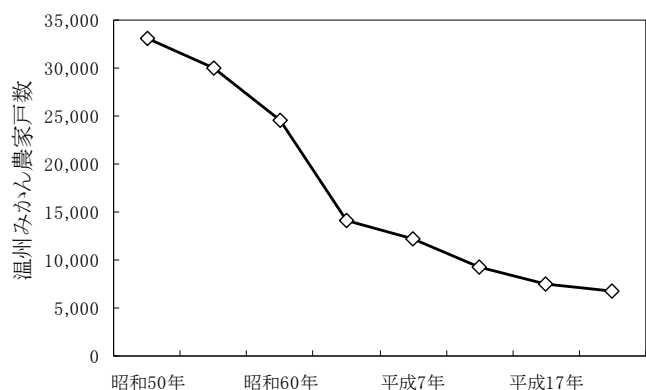


### 3 静岡県果樹農業の動向

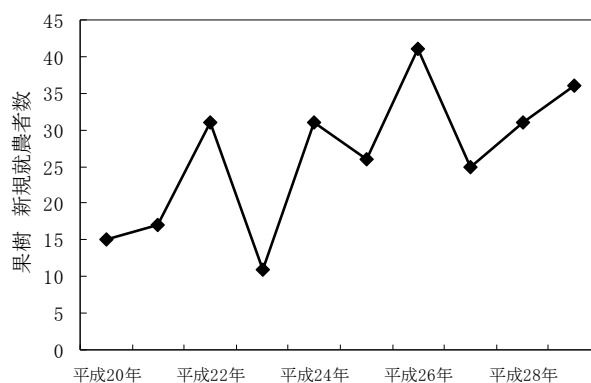
#### (1) 果樹生産者の動向

##### ア 生産者数と新規就農者数

- ・ 温州みかんの農家戸数は、昭和 50 年以降減少傾向で推移しているものの、近年は減少数が少なくなっている。
- ・ 果樹新規就農者数は、平成 20 年以降、年によりバラつきはみられるものの、近年は増加傾向である。



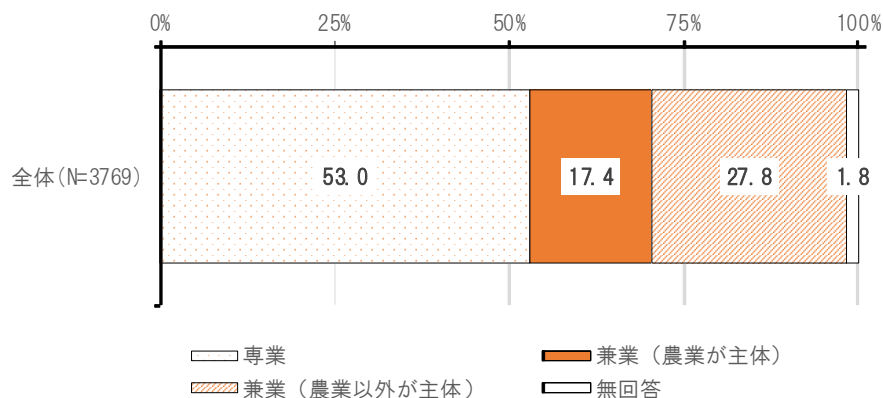
○ 静岡県内における温州みかん農家戸数の推移  
農業センサスより



○ 静岡県内における果樹新規就農者数の推移  
静岡県調べ

##### イ 果樹農家の経営と雇用

- ・ 果樹農家は「専業」が 53%と最も多く、以下「兼業（農業以外が主体）」が 28%、「兼業（農業が主体）」が 17%となっている。
- ・ 果樹農業の経営形態は家族経営が 98%で、法人経営は 0.4%にとどまっている。
- ・ 雇用している場合、採用方法は縁故採用が 74%と最も多く、次いで求人募集が 20%となっている。



○ 果樹農家の専業・兼業の別

(R元 静岡県果実生産出荷安定協議会)

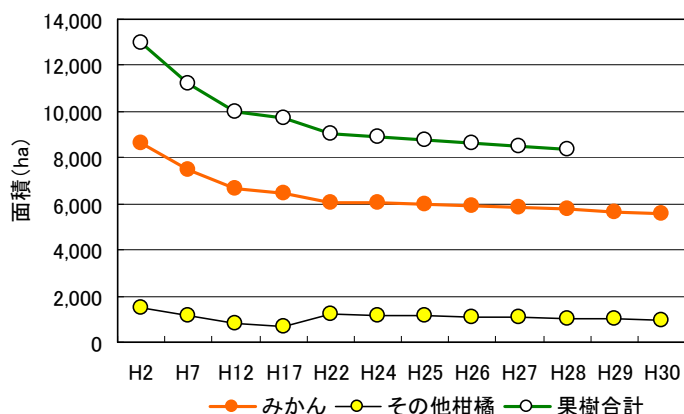


## (2) 県産果実の生産動向

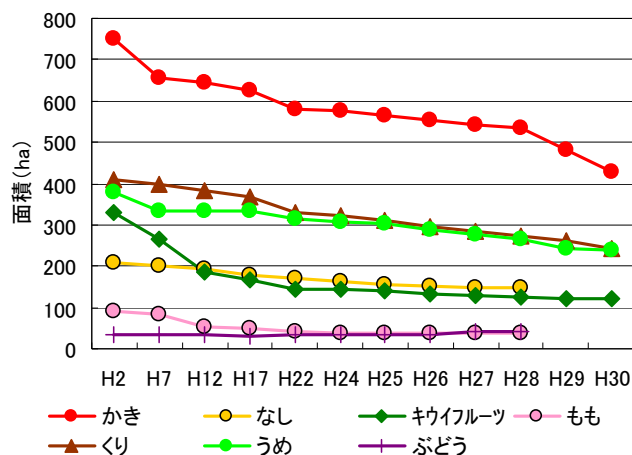
### ア 県内における果樹の産出額及び栽培面積の推移

- 栽培面積は、みかんでは現状 5,580ha で前回の計画策定時に比べて 5% 減少したが、全国に比べて減少幅は少ない（全国 8%）。
- 産出額は、生産面積が減少したものの増加し、平成 2 年以降、産出額は 170～300 億円の間を推移している。
- 産出額の増加は、全国的な生産量の減少に加え、改植による優良品種の増加や生産技術の向上による品質向上により、みかん販売単価が上昇したためと考えられる。
- 落葉果樹の栽培面積は、みかんに比較し減少割合は小さいものの、ぶどうを除く全ての果樹で減少している。
- なお、ブルーベリー、スモモの産地化が始まる等、新しい品目への取組もみられる。

○ 県内果樹と柑橘の栽培面積の推移



○ 落葉果樹の栽培面積の推移



\*果樹合計、なし、もも、うめ、ぶどうの面積は H28 以降公表されていない

### イ 温州みかんの動向

#### (ア) 愛媛県、和歌山県との比較

- 温州みかんの生産量は和歌山県、愛媛県、静岡県の 3 県で約 50% を占めている。
- 静岡県は、和歌山県、愛媛県と比べて、早生品種の比率が低く、「青島温州」に代表される貯蔵みかんが年明け後に市場のシェアの 40% 超を占める。
- 本県の温州みかんの価格は、愛媛県、和歌山県に比べて高く（全国単価の 120%）、特に生産量が多く品質が価格に反映されやすい表年でその傾向が顕著である。

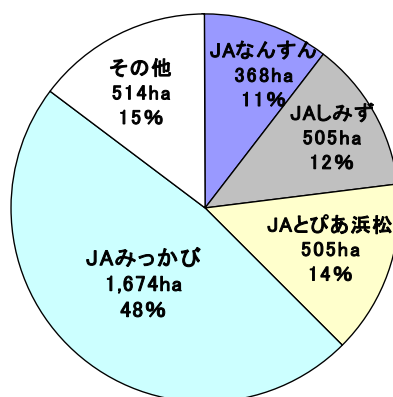
○ 静岡県、愛媛県、和歌山県のみかん生産量、販売単価の比較

項目	県	H27	H28	H29	H30
生産量 (t)	静岡	101,200	121,300	81,700	114,500
	愛媛	120,600	127,800	120,300	113,500
	和歌山	160,200	161,100	144,200	155,600
販売単価 (円/kg)	静岡	307	277	359	290
	愛媛	250	280	291	288
	和歌山	233	256	304	264

生産量は農林水産統計  
販売単価は10地域市場平均

(イ) 県内主要みかん4産地の状況

- ・ 県内のみかん栽培面積のうち、JAみっかびが48%とほぼ半数を占める。次いで、JAとびあ浜松が14%、JAしみずが12%、JAなんすんが11%と続き、上位4農協で85%を占める。
- ・ 1戸あたりの栽培面積は、JAみっかびでは5年間で約20%増加した一方で、他のJAは減少～横ばいであり、規模拡大に産地間の差がみられた。
- ・ 1戸あたりの販売額は、JAみっかび、JAとびあ浜松で増加した一方で、JAしみず、JAなんすんでは減少しており、産地間で差がみられた。
- ・ 70歳未満の割合は、いずれの産地も減少しており、高齢化の影響が確認された。しかし、産地間で差が見られ、新規就農者数の差が示唆された。



○ 県内主要みかん4産地の栽培面積  
(各産地計画より)

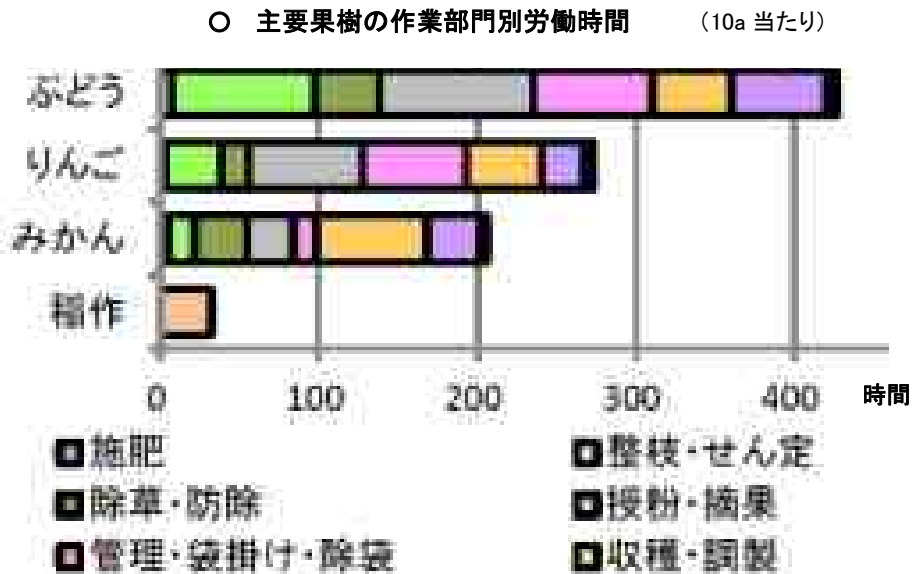
○ 現在の県内主要みかん産地の状況 (各産地計画より)

産地 年次	JAなんすん		JAしみず		JAとびあ浜松		JAみっかび	
	H26	R1	H26	R1	H26	R1*	H27	R1*
栽培面積 (ha)	415	368	420	373	558	505	1,664	1,674
出荷量 (t)	7,913	4,000	8,614	7,046	9,773	8,833	30,000	25,780
販売額 (億円)	16	11	20	17	21	23	80	73
農家戸数	380	368	820	715	815	703	1,424	1,197
栽培面積/農家戸数 (a)	109	100	51	52	68	72	117	140
販売額/農家戸数 (万円)	421	299	244	232	258	320	562	607
70歳未満の割合 (%)	70 (H23)	60	58 (H24)	50	56 (H23)	53	73 (H23)	67 (H30)

\*R1は県西部地域で雹害が発生したため、出荷量に影響した。

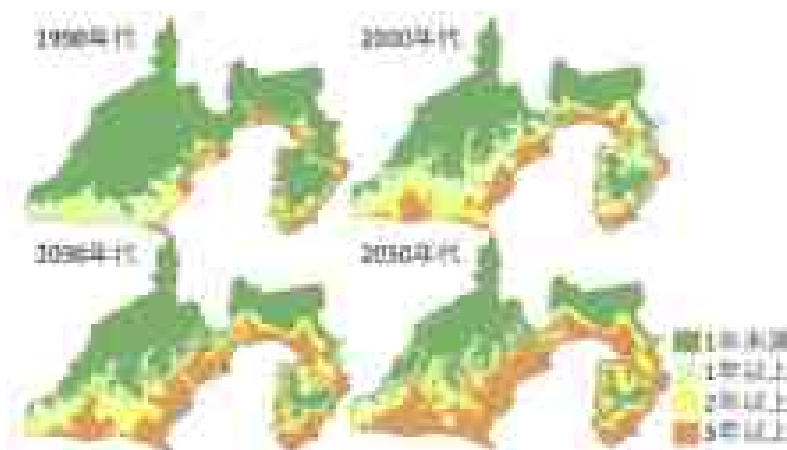
(ウ) みかんの労働生産性

- ・ みかんの 10a 当たりの労働時間は 200 時間を超え、ぶどうやりんごに比べて短いものの、稲作等他の土地利用型作物と比較すると長い。
- ・ みかんの労働時間の約半数は収穫・調整作業であり、労働ピークが短期間に集中する労働集約的な構造であり、労働力の確保が課題となっている。

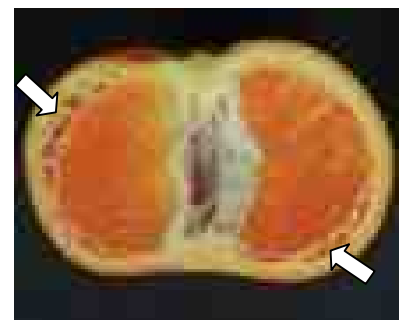


(エ) 温暖化の影響

- ・ 農研機構の研究によると、静岡県内の温州みかんでは、2030 年代、2050 年代に浮皮多発年の出現頻度が増加する予測をしている。



○ 温州みかん「青島」の静岡県における浮皮多発発生年の出現頻度 (10 年あたり)。(農研機構果樹茶業研究部門)



○ 温州みかんの浮き皮(矢印)

外皮と果肉部に空隙が生じ、貯蔵性が悪くなります。

### (3) 県産果実の流通・販売動向

#### ア 果実選果場整備状況

- ・ 販売戦略に基づいた果実を出荷するため、県は果実選果機、選果場の導入・整備を推進している。
- ・ 現在県内では柑橘で15選果場、落葉果樹で12選果場が整備されている。
- ・ 平成26年以降では、平成27年に丸浜柑橘農協連、JAハイナン、平成28年にJA伊豆太陽、平成29年にJA富士市で選果機をそれぞれ更新した。
- ・ JAみっかびは、令和2、3年度にAI・ICT等の先端技術を導入した新たな柑橘選果場を整備する計画で、国庫補助事業の活用とともに、県においても農芸品品質管理高度化促進事業を創設し、その支援をしている。

#### イ 県産果実の販売先

- ・ 県産柑橘は、約40%が京浜市場に出荷され、次いで20%が中京市場、18%が県内への出荷となっている。
- ・ 県産落葉果樹は、57%が県内、36%が京浜への市場出荷となっている。なお、落葉果樹の多くは市場出荷されず、直売で販売されることが多い。

#### ○ 県産果実の柑橘、落葉果樹別の出荷先別割合(%)

品目	県内	県外		
		京浜	中京	その他
柑橘	18	39	20	23
落葉	57	36	4	3

令和元年度静岡県経済連販売実績より

#### ウ 輸出の動向

- ・ 温州みかんでは輸出量はほぼ横ばいで推移している。輸出先はカナダへの大部分を占めているが、近年は東南アジアを中心に新たな輸出先を開拓している。
- ・ かきでは、平成28年より需給調整を目的に、東南アジアへの輸出に取り組んでいる。

#### ○ 静岡県産温州みかん及びかきの輸出状況

品目	輸出先	H27	H28	H29	H30
温州みかん (t)	米国	-	-	-	-
	カナダ	115	113	99	116
	NZ	17	6	17	22
	タイ	5	1	-	-
	香港	1	6	8	-
	シンガポール	5	2	4	-
	マレーシア	1	5	8	2
	台湾	-	-	-	4
	本県計	144	132	141	144
	全国計	2,528	1,809	1,585	650
本県シェア	6%	7%	9%	22%	
かき (kg)	マレーシア	-	600	860	1240
	タイ	-	-	450	-
	香港	-	-	-	21
	シンガポール	-	-	-	100
	合計	-	600	1,310	1,361

## エ 加工の動向

- ・ 165 種類の果実の加工品が製造、販売されている（H30 農芸振興課調べ）。
- ・ 原料は、その他柑橘が最も多く、次いでみかん、ブルーベリーなどが多い。
- ・ 各農林事務所に 6 次産業化サポートセンターを設置する等積極的な取組により高品質果実加工品の商品開発が進んでいる。

## （４）果実の消費拡大の取組

### ア 温州みかんにおける機能性表示

- ・ 平成 27 年 4 月、食品表示制度の改正に伴い、「機能性表示食品」制度が始まり、生鮮食品についても機能性が表示できるようになった。県及び経済連は、光センサー選果機のある県内農協について、温州みかんの機能性表示届出の支援をしている。
- ・ 現在 6 農協でみかんの機能性表示食品の届出を済ましており、系統出荷におけるみかんの機能性表示販売割合は 80%を超えている。
- ・ J A みっかびではこれまでのβクリプトキサンチンによる骨の健康維持に加え、令和 2 年 9 月に GABA による高血圧の方に対して血圧を下げる効果の表示が受理された。このことから、生鮮果実で初の W 表示が可能となった。

### イ ブランド品の創出と情報発信

- ・ 本県産果実や加工食品のブランド化を促進するため、国内外に誇り得る価値や特長を備えた果実として認定している「しずおか食セレクション」や、本県産果実の魅力を活かした新たな加工食品として表彰している「ふじのくに新商品セレクション」を中心に、情報発信等を行っている。
- ・ 令和元年度までに「しずおか食セレクション」は 24 品目が認定、「ふじのくに新商品セレクション」は 21 商品が表彰されており、いずれも増加している。

○ 「しずおか食セレクション」認定状況(果実)

認定年度	商品名	事業者名
平成 22 年度	寿太郎プレミアムゴールド	JA なんすん 西浦柑橘出荷部会
	本貯蔵青島誉れ	三ヶ日町柑橘出荷組合
平成 23 年度	JA 伊豆太陽ニューサマーオレンジ	JA 伊豆太陽 ニューサマー部会
	するがの柿	JA なんすん 四ツ溝柿専門部会
	こん太	JA しみず
	はるみ	JA しみず
	浜松ブルーベリー	丸浜柑橘連
	プライム (早生・青島)	JA とびあ浜松
平成 24 年度	ミカエース	三ヶ日町柑橘出荷組合
	スルガエレガント	JA 静岡市
	丸浜産片山みかん	丸浜柑橘連
平成 25 年度	丸浜産グレープフルーツ	丸浜柑橘連
	静岡伊豆の大富マンゴー	農事組合法人大富農園
平成 26 年度	JA 伊豆太陽冷風甘夏	JA 伊豆太陽 柑橘委員会
	川根本町ゆず	ふじのくに川根本町ゆず協同組合
平成 27 年度	次郎柿 (敷地)	JA 遠州中央 敷地柿組合
	JA 伊豆太陽ハウスみかん	JA 伊豆太陽 ハウスみかん部会
	富士山イチョウ娘	JA 富士宮 銀杏部会
	しみずの銀杏	JA しみず
平成 28 年度	長田の桃	JA 静岡市 長田桃生産委員会
	浜北次郎柿	JA とびあ浜松
平成 30 年度	三ヶ日みかん (青島温州)	三ヶ日町柑橘出荷組合
	いずのはる	JA 伊豆太陽 はるひ部会
令和元年度	伊豆の葡萄 富士稔	田中農園